令和３年度　附属小学校だより

スマイルふぞく

第４号　令和３年６月３０日（水）　校長　古野　祐一

「出前授業」に行ってます！

「附属小の先生方に出前授業をしてもらい，子どもも教員も大変勉強になりました。」

先日，ある学校の校長先生からこうした喜びのお電話をいただきました。諫早市で複式学級担任をされている先生方が集う，複式授業のあり方・やり方を学ぶ会に講師として招かれたからです。江頭教諭が算数授業を提案し，野口教諭が複式学級経営全般について伝えました。附属小３・４年Ａ組の子たちとリモートでつなぐ新たな取組も大変好評でした。

リピーターの学校や地域も多く，佐世保市の学校からは毎年要請を受けています。そこにも先日，近藤教諭が算数授業を，松尾教諭が複式経営全般を提案し，学校の困り感解消の一助になれたことを喜んでいます。

附属の特長は，他校の要望に応えて様々な授業を提供できる教師が切磋琢磨しているところです。そのため県教育委員会とも連携し，学力向上に向けた提案授業を県下に発信し，授業改善の機運を高める役割も担っています。こうした取組に貢献し一人一人の力量が更に上がっていくことで，「一歩前へ，何度も挑戦」する北斗の子が育つ学校になると考えています。

リモートで繋がるＡ組の子どもたち

授業提案する本校職員

スマイル附属へ「２％アップ」！

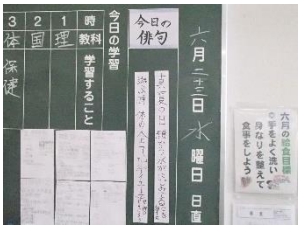
そんな地域貢献をしているメンバーが，北斗の子らの学びや暮らしを今より「２％アップ」させる取組を各々続けています。

ある先生は，子どもたちや来客を花で出迎え温かい気持ちになってもらおうと「フラワープロジェクト」を考案しました。水やりボランティアを進んで行う子どもも現れ喜んでいます。

ある先生は「俳句」で子どもの感性を磨きます。毎朝二人ずつ紹介する自作俳句が，朝の始まりを豊かにしています。

一人一人の異なる取組には，子どもを幸せにしようという願いや思いが込められています。全職員でコツコツと続け，スマイルアップをしていきます。

朝や帰りの水やりボランティア！



背面黒板に貼られた「今日の俳句」

※裏面に続きます！

ifによる問い返し

最近の私は，子どもの何気ない疑問に，すぐに答えてしまうのではなく，疑問の正体を，子ども自身に，よりはっきりと認識できるようにしています。そうすることで，子どもが自分自身で疑問に対する答えを発見できるようになるのです。子どもの何気ない疑問に有力な武器になるのが「ｉｆ（もし～ならば）」による問い返しです。

先日，学校の廊下を歩いているときに，低学年の男の子から次のような疑問を投げ掛けられました。

「なぜあいさつをしないといけないの？」

私は，「もし，あいさつをしなかったら，どうなると思う？」と「ｉｆ」で問い返しました。その男の子は，「うーん」と考え始め，「あいさつをしないと，気持ちよくない」「あいさつをすると笑顔になる」と自分なりの答えを導き出していました。

「ｉｆ」による問い返しによって，子どもは「もし～ならば」とその場面を想像し始めます。これは，普段の生活の中はもちろん，授業でも生かせると私は考えます。

北斗の子の心を見つめる週間は終わりましたが，「ｉｆ」による問い返しで，子どもの想像力を豊かにし，子どものよりよい言動につながるよう働き掛けます。

文責　教頭　松永

○○が１番！

心を見つめる教育週間においては，多くの方の御参観ありがとうございました。

私は，学びや遊びにおいて没頭している子どもを見ると嬉しくなります。それは，「好き」が前面に表れているからです。実は，この「好き」という思いは，やる気を上げるだけでなく，維持するためにも一番大切であることが分かっています。目標や夢はもちろん大切ですが，やはり「好き」がやる気の一番の原動力なのです。

そういえば，以前，脳科学者の中野信子さんが明石家さんまさんの一言「努力は努力と思わない方がいい。好きだからやっているだけよ，で終わっといた方がええね。」を努力の本質をついていると語っていました。

やる気も努力も「好きが一番」なのです。

附属小は，全てのことを好きになるように，日々研究を積み重ねています。

文責　主幹　池田

大地から学ぶ

運動場の向日葵が大きな花を咲かせています。裏庭を覗いてみると，２年生の夏野菜，１年生の朝顔など，梅雨の雨を恵みに作物が大きく成長しています。土を耕し種を蒔き，心を込めて世話をする。自然の被害を受けながらも収穫の喜びを感じる。このような大地から学ぶ経験は生きた教材として子どもの心を豊かに育みます。

私たち職員も大地から学ぶことがあります。４年生では，ツルレイシの栽培を行っています。蔓が伸び始めたタイミングで植え替えを行った学級とタイミングを逃した学級では育ちに大きな差が現れました。この教訓から，機を逃さない教育の大切さを学ぶことができます。

作物を育てる道程を大切に，心を育てる栽培活動の充実を図って参ります。

文責　教務　橋田